

学校法人 滋慶文化学園 仙台医健専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成29年6月17日実施】

平成28年度自己点検自己評価(平成28年4月1日～平成29年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価		点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	3		学校法人滋慶文化学園仙台医健専門学校は、学校法人滋慶学園グループに所属し、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」をミッション(使命)としている。 また、「建学の理念」…「実学教育」・「人間教育」・「国際教育」を実践し、「4つの信頼」…「学生と保護者の信頼」・「高校の信頼」・「業界の信頼」・「地域の信頼」を得られることを軸にした考え方で学校運営を行っている。	「学校法人滋慶学園グループ」 昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッションに掲げ、全国に70校の高等教育機関及び専門学校を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、「建学の理念」…「実学教育」・「人間教育」・「国際教育」と「4つの信頼」…「学生と保護者の信頼」・「高校の先生の信頼」・「業界の信頼」・「地域の信頼」を実践することで、教育の実現を目指している。 仙台医健専門学校の教育目標は、建学の理念に基づき、健康・スポーツ・医療・リハビリ・幼児教育の分野において社会人として十分に適応し、即戦力として活躍できる職業人を育成し世に輩出する。 ○仙台医健専門学校における「実学教育」 豊かで活力ある高齢社会の実現のために、業界の即戦力として活躍できる専門知識や技術を習得し、将来的なニーズに対して創造的に対応できる専門職として、業界が求める人材を育成する。 ○仙台医健専門学校における「人間教育」 学ぶことは、将来の目標実現に向けて自己変革し、自らに付加価値をつけ、専門知識や技術だけでなく、使命感を持って前向きに生きる情熱と思いやりを持った心豊かな人材を育成する。 ○仙台医健専門学校における「国際教育」 少子高齢化が進むわが国が、豊かで活力ある社会になるために、先進国の現状に学び、健康・スポーツ・医療・リハビリ・幼児教育のあり方をグローバルな視点からとらえ、積極的にその役割を担う人材を育成する。 3つのポリシー CP(カリキュラムポリシー) 「建学の理念」(実学教育、人間教育、国際教育)を実践し、「4つの信頼」(学生・保護者からの信頼、高等学校からの信頼、産業界からの信頼、地域からの信頼)を得ることを教育コンセプトとし、産学連携教育を通じて業界に必要とされる即戦力を身に付ける。 1)学科を超えた国家試験対策の水平展開や、グループ力を活かした国家試験対策センターの対策、分析を通じて資格試験に合格するための力を身に付ける。 2)講義、実習、イベント、研修などのすべての基本となる産学連携教育システムを通じて業界が求める即戦力を身に付ける。 3)海外研修やインターンシップなどを通じて、業界の最新動向を知り、知識、技術に対する関心と感性を磨く。 DP(ディプロマポリシー) 業界に喜ばれる感動的な人材を育てる。 1)目指す職業に必要とされる資格を取得する。 2)創造力とホスピタリティを持った業界が求める即戦力を身に付ける。 3)業界の変化をキャッチアップし、社会や業界が求める職域、知識、技術に対する感度を上げ、日々研鑽に努める人材を目指す。 AP(アドミッションポリシー) 仙台医健専門学校では、職業人教育を通じて社会に貢献することをミッションとし、業界に喜ばれる人材を業界とともに育成している。よって入学受け入れ方針を満たした以下のような人を国内外より広く受け入れる。 1)将来の夢や目標を持っている人 2)学校の教育内容や方針を十分理解している人 3)好きな仕事を通じて、人に喜びや感動を与えたい人 4)「好きな事を仕事にしたい」という気持ちを持っている人	3・2・1	○人間教育を基本とする学校の姿勢に敬意を表するものです。また、常に学生の考え、行動を尊重する学校の方針は、専門学校として高度な学校理念だと思えます。 ○将来を考えた高い教育理念である。 ○学校設立のコンセプトにもあるように、専門的な知識や技術だけを養成するのではなく、社会のニーズあった人材育成に力を注いで頂きたい。 ○人間教育を大切にし、実学教育に継続して取り組んでほしい。 ○3つのポリシーを明確にすることは素晴らしい。 ○学校設立時より専門教育を産学連携教育をもとに産業界と学校が一体となり、多くの優秀な学生を輩出し、「建学の理念」の基にね長年培った教育方針を実施し、各業界から高く評価されていると思えます。
	1-2 学校の特色は何か			学校設立のコンセプトは、～業界と共に「信頼」を得る学校～であり、単なる専門知識・技術を持った人材を養成するのではなく、業界に喜ばれる感動的な人材を育てるといった基本的な考えの基に人材育成を行っている。 又、「職業人教育」=「専門職業教育」+「キャリア教育」との観点より「仲間と面白い仕事を夢中とする幸せ」の獲得を目指し、そのために必要な「身構え、気構え、心構え」を育成する。という基本的方向性に基づいて、入学前(基盤となる勤労観・職業観の形成と確立をする時期)・在学中(専門職業に就くプロセスの設計と能力の習得をする時期)・卒業後(社会・職業人への移行と更なるキャリアを開発する時期)と捉え展開している。			
	1-3 学校の将来構想を抱いているか			滋慶学園グループの「建学の理念」や「4つの信頼」を踏まえた、自主的・自律的な3つのポリシーの策定 ①DP(ディプロマポリシー)…卒業認定・学位授与の方針 卒業までに学生が身に付けるべき資質・能力の明確化 ②CP(カリキュラムポリシー)…教育課程編成・実施の方針 体系的で組織的な教育活動の展開のための教育課程編成、教育内容・方法、学修成果の評価方法の明確化 ③AP(アドミッションポリシー)…入学受け入れの方針 入学に求める学力の明確化と具体的な入学選抜方法の明示 以上の3つのポリシーとそれに基づく教育の実績等を分かりやすく積極的に情報公開することで、産業界からの理解を得て連携を強化する。			

<p style="text-align: center;">2 学校運営</p>	<p>2-4 運営方針は定められているか</p> <p>2-5 事業計画は定められているか</p> <p>2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか</p> <p>2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか</p> <p>2-8 意思決定システムは確立されているか</p> <p>2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか</p>	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>環境の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。 それを受けて、滋慶学園COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶学園COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各校における運営の核となるものである。</p> <p>事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決算を受け、承認を得ることになっている。 それを受け、各学校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修も行っている。 事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取組み、職務分掌、各種会議及び研修等について明確に示されている。</p> <p>運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>学校が最も大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また係わる全ての人材が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。</p>	<p>各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、全ての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。 学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また方向性、位置付け等を確認できるシステムを構築している。</p>	<p style="text-align: center;">3 ・ 2 ・ 1</p>	<p>○少子化等の学校運営・経営の厳しい中、様々な角度から努力している姿を感じる。 ○中・長期的な学校運営に心がけていることは、社会のニーズに合致している。 ○学校運営は、常時社会状況の変化に応じ、貴陽行く・財務面で短期的長期的に見直しを行い健全な状態で管理運営していると思えます。</p>
<p style="text-align: center;">3 教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>職業人教育は業界と密接な関係を持つ必要があるため、建学の理念・学校設立コンセプトに基づいて、常に業界の動向を把握し変化に対応して養成目的や教科目標の見直しを毎年実施している。</p> <p>仙台医健専門学校は、「産学連携教育システム」を実践しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成している。</p> <p>教科目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで体系的に編成されている。 また、カリキュラムは専門職業教育とキャリア教育の二本柱から成り立っている。</p> <p>講義改善、教職員・講師の資質向上等を目的として授業評価を年2回実施しており、学生の理解度や講師の状況等を正確に把握し改善している。</p> <p>成績評価・単位認定は、明確な基準を学生に提示している。</p> <p>資格取得については、業界で業務遂行上必要な資格、就職に有効な資格を中心に取得へ向けて支援を行っている。</p>	<p>仙台医健専門学校は、平成19年の開校以来教職員の目標として、 1.就職率100%(第一専門職) 2.国家試験合格率100% 3.退学率0% を目標に掲げ、達成のために教育システムを構築している。</p> <p>1.産学連携教育システム 即戦力としての専門的知識・技術、資格取得、ビジネスマインド等の修得のための教育システムであり、 ① 企業プロジェクト ② ダブルメジャー・カリキュラム ③ 業界研修 ④ 海外実学研修 ⑤ 特別ゼミ ⑥ キャリアセンター などである。</p> <p>2.キャリア教育 「仕事は一人ではできない。仲間と面白い仕事を夢中でする幸せは、何よりの幸福である。」という根本的な考えから、キャリア教育ロードマップを作成し、 ① 入学前…基盤となる勤労観・職業観の形成と確立をする時期 ② 在学中…専門職業に就くプロセスの設計と能力の修得をする時期 ③ 卒業後…社会・職業人への移行と更なるキャリアを開発する時期と捉えて取り組んでいる。</p>	<p style="text-align: center;">3 ・ 2 ・ 1</p>	<p>○学校・教職員の学生を思う気持ちを強く感じます。 ○産学連携システムを活用した教育内容はもっと進めてほしい。 ○一貫した学生へのサポート体制が整っている。 ○昨年、初めてミュージカル「Hospital of Miracle」を鑑賞させていただき、力強く演技している姿に感動しました。</p>

<p>4 教育成果</p>	<p>4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>2</p>	<p>平成19年開校以来、産学連携教育システムである企業プロジェクト、企業課題に積極的に取り組み、企業に採用された作品や地域との信頼、貢献に繋がるプロジェクトやボランティア活動も定期的にも実施できるようになり、学生達への「実学教育」「人間教育」に繋がっている。</p> <p>教育成果は、目標達成の努力の結果であり、本校では第一専門職就職100%、退学率0%、国家試験合格100%を教育成果の最終目標としている。</p> <p>就職では、就職希望者に対して99%である。平成28年度の退学率は、3.5%であった。また、平成29年度は年度目標を1.1%として取り組む。</p> <p>国家試験では、合格率100%を目指し、取り組む。</p>	<p>教育成果の1つである就職率は、5月末現在対象者106名中105名内定で99%。</p> <p>国家試験合格率は、理学療法科41名中40名合格で97.6%、柔道整復科48名中36名合格で75%、視能訓練科18名中15名合格で83.3%でした。平成29年度は3学科100%を目指している。</p> <p>平成28年度の退学率は、スポーツ科学科57名中6名が退学し、退学率は10.5%、柔道整復科は178名中8名が退学し、退学率は4.5%、視能訓練科は59名中0名が退学し、退学率は0.0%で、理学療法科273名中6名が退学し、退学率は2.2%、全体では、3.5%であった。</p> <p>平成29年度は、学生への個別カウンセリングの強化・保護者との連携などを行い、スポーツ科学科3.4%、柔道整復科1.6%、視能訓練科0.0%、理学療法科0.4%を目標とし、全体目標を1.1%として取り組んでいる。</p>	<p>3・2・1</p>	<p>○高い目標設定の中、教職員の熱意を感じます。目標達成100%を祈ります。</p> <p>○就職情報の収集や企業と連携した合同企業説明会の開催など積極的に取り組んだ結果が高い就職率に繋がっていると思われる。</p> <p>○退学率の黙秘用達成には至らなかったようですが、次年度は是非目標を達して欲しいです。</p>
<p>5 学生支援</p>	<p>5-23 就職に関する体制は整備されているか</p> <p>5-24 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>5-29 保護者と適切に連携しているか</p> <p>5-30 卒業生への支援体制はあるか</p>	<p>3</p>	<p>仙台医健専門学校では、学生支援として下記の事項を行っている。</p> <p>① 就職・・・専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との連携を取りながら、就職イベントの開催(就職出陣式、合同企業説明会、キャリアセミナー、就職保護者説明会)、就職の相談、斡旋、履歴書作成等の各種指導などの支援を行っている。</p> <p>② 学費・・・事務局会計課に相談窓口を設置し、フィナンシャルアドバイザーによる支援を行っている。また、教務部に奨学金窓口を設置している。</p> <p>③ 学生生活・・・担任・副担任制により学生カウンセリングを行っているが、悩み相談窓口としてSSC(スチューデント・サービス・センター)を設置し、週2日は心理カウンセラーも配置している。</p> <p>④ 健康管理・・・年1回の健康診断を実施し在学中の健康管理を支援している。</p> <p>⑤ 学友会・・・学友会として、柔道部・バスケットボール部・野球部・サッカー部・バドミントン部・バレーボール部・ゴスペルアンサンブル部・スキルアップ研究会・ボランティア部が活動している。</p> <p>⑥ 施設使用・・・学生が自らすすんで勉強できるように、実習室・機材を貸し出ししている。</p> <p>⑦ 図書室・・・知識を広げ自習が出来るように図書室を設置し、図書室では情報収集ができるようインターネットが利用できる。</p>	<p>学生支援の特記事項として、下記の事項をおこなっている。</p> <p>① 就職・・・就職は、入学時からの目標であるため専門部署であるキャリアセンターを設置し、業界研修の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント、就職斡旋等、就職に関するあらゆる支援を行っている。また、求人情報が携帯電話でも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」等も導入している。</p> <p>② 学費・・・事務局会計課に学費の分納等に関する相談窓口を設置し、フィナンシャルアドバイザーによる支援を行っている。また、日本学生支援機構の奨学金を利用する学生が在籍生の61.2%と高いため、教務部に奨学金窓口を設置している。</p> <p>③ 教育環境・・・即戦力の人材育成をするために、施設・設備、機材等について整備し、業界のニーズと合致したカリキュラムを構築している。</p> <p>④ 平成29年度春季健康診断の受診率は、在籍者540名中対象者535名(休学者5名を除く)中533名受診99.6%です。但し、2名は長欠者。要二次検診は、44名 である。</p>	<p>3・2・1</p>	<p>○細やかな学生支援をやっていると思う。</p> <p>○フォローアップが手厚いて感じられます。</p> <p>○学生への支援体制が整っていると感ずる。</p> <p>○健康診断二次検診者の受診率100%達成を目指して欲しい。</p>

<p>6 教育環境</p>	<p>6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>6-33 防災に対する体制は整備されているか</p>	<p>3</p>	<p>仙台医健専門学校では、「職業人教育を通して社会に貢献する」というミッションのもと、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としている。この目的を達成するために必要な教育環境(施設、設備、機材等)の整備は重要であり整備されている。また、学内の教育環境に留まらず、学外の教育環境(業界研修、学外演習、海外実学研修)も整備している。</p>	<p>東北地区における、健康・スポーツ・医療・リハビリ・幼児教育をキーワードにした専門学校でオンリーワンを目指す本校にとって、施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、最新・最良のものを整備している。</p> <p>毎年、事業計画により予算計上を行い、計画通りに更新している。</p>	<p>3・2・1</p>	<p>○常に新しい情報を得て、新しい環境を整備している。 ○環境が整備されている。 ○教育環境を整備することで教育が達成できる。</p>
<p>7 学生の募集と受け入れ</p>	<p>7-34 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p> <p>7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <p>7-37 学納金は妥当なものとなっているか</p>	<p>3</p>	<p>本校は宮城県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO入試等)を遵守している。また、過大な広告を一切廃し必要な場合は根拠数字記載するなど、適切な学生募集ができるように配慮している。さらに広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。</p> <p>広報・告知に関しては各種媒体、ホームページ、入学案内、説明会等を通して、学校や教育内容を知ってもらえるように努めている。これらすべての広報活動において収集した個人情報、校内に個人情報保護委員会を設置し、管理の徹底を行っている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しており、入学選考後は「入学選考会議」により、可否を決定する。</p> <p>学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っている。保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中での追加徴収を行わない。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。</p> <p>広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。本校は専門職への就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前から目指す職業のイメージが明確になっていることが大切と考え、体験入学や説明会を通して十分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化している、学生募集上の効果はかなり高いと考えられるが、それゆえに過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、常にチェックしている。</p>	<p>3・2・1</p>	<p>○多方面から募集PRをやっているように感じます。少子化の時代を迎え、まさに他校との競争の時代です。益々の努力を期待し、精進を願います。 ○広報活動を休むことなく幅広く行う事は、学校経営上必要なことである。</p>

<p>8 財務</p>	<p>8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-40 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-41 財務情報公開の体制整備はできているか</p>	<p>3</p>	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度の事業計画書を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前にくんでおくのが目的である。</p> <p>また、学校、学園本部、理事会、評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に即した予算編成となっており、健全な学校運営が出来ていると考えられる。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。</p> <p>①正確かつ実現可能な予算の作成 短期的と長期的の両方を事業計画として作成し、短期的視野と長期的視野の2つの観点から予算編成をしている。 短期的な予算編成は当年度の実績を基に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。 中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。 正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとならぬ場合はそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。</p> <p>②体制作り 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し、予算と乖離しているようであれば、修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。</p> <p>③財務情報公開 平成25年度よりHPにて財務情報公開に取り組んでいる。</p>	<p>3・2・1</p>	<p>○健全な学校運営を期待します。 ○正確な収支計画を立てて実現可能なものになっていると思います。</p>
<p>9 法令等の遵守</p>	<p>9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</p> <p>9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</p> <p>9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</p> <p>9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか</p>	<p>2</p>	<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとにコンプライアンス委員会が学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では学校運営が適切かどうかは次の各調査等においてチェックできるようにしている。</p> <p>①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基本調査 ④専修学校各種学校調査 等 である。</p> <p>また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。</p> <p>(A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ)</p> <p>(B) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)</p> <p>滋慶学園グループ、滋慶学園COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健全な学校運営が出来るようにしている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。</p>	<p>すべての法令を遵守するとともに社会規範を尊重し、高い倫理感に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。</p> <p>方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置。委員長は統括責任者として学校の役員が就任し、委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は行動規範・コンプライアンス規定の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。 滋慶学園グループの自己点検・自己評価実施の方針のもと、自己点検・自己評価を実施した結果及び学校関係者評価委員による評価も併せて公開している。</p>	<p>3・2・1</p>	

1 0 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	滋慶学園グループには、「4つの信頼」①業界の信頼 ②高等学校の先生の信頼 ③学生・保護者の信頼 ④地域の信頼 というコンセプトがある。この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。	滋慶学園のミッションである「職業人教育を通して社会に貢献する」ことを目標に、人材育成を具現化することで、本校を巣立つ学生が社会に貢献することを願う。	3・2・1	○各学科毎、また合同での社会貢献は他校では見られないことです。○社会貢献活動に対して積極的に活動参加することは素晴らしい。学生自身の経験値、スキルアップに繋がる。
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか		又、滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」や「節電」に関するクールビズやウォームビズは、学生、教職員、講師が積極的に取り組んでいる。	公益社団法人日本柔道整復師会東北ブロック、公益社団法人宮城県柔道整復師会、一般社団法人宮城県理学療法士会、日本義肢装具士協会、公益社団法人視能訓練士協会東北ブロック、特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会等の講習会会場として校舎を提供している。		
スポーツ科学科については、特別教育科目としてボランティアを設置している。平成26年度より、学友会組織にボランティア部を新設した。また、仙台国際ハーフマラソンで活動を行いました。						